

ジャパニーズ・ジャーナル(JAPANESE JOURNAL OF MATHEMATICS)について

1975年ジャパニーズ・ジャーナルは長い論文も掲載できる雑誌として再発足し、それ以来、各大学の紀要などでアクセプトされた論文の委譲を受け、紀伊国屋書店で編集・製作・販売を行ってきました。ところが、時間が経つにしたがって、「各大学が優れた論文をジャパニーズ・ジャーナルに推薦する」という従来の理念が希薄になり、良い論文を集めることが難しくなり、また販売数も大幅に落ち込んできました。このため、ジャパニーズ・ジャーナルの編集委員会では直接投稿を認める方針に変えましたが、大勢を変えるには至りませんでした。

このような情勢の中、昨年夏、紀伊国屋書店から「ジャパニーズ・ジャーナルの編集・製作・販売から手を引きたい」との申し出があり、交渉の結果、平成17年度で紀伊国屋はジャパニーズ・ジャーナルから手を引き、その後どうするかは日本数学会が検討することになりました。

そこで昨秋、ジャパニーズ・ジャーナルの拡大編集会議で意見を聞いた後、日本数学会の理事会はジャパニーズ・ジャーナルの将来を検討するためのワーキング・グループを作り、今後のあり方を検討しました。その結果、「現在は各大学などの紀要でアクセプトされた論文の移譲が中心」であるのを、「これからはオリジナルなサーベイ論文を掲載する」雑誌とし、現在と同様に年2回に分け、計400ページ程度を印刷し、販売を続ける方針が提案されました。

これを受けて、理事会でジャパニーズ・ジャーナルを具体的にどのようにするかの検討が行われ、特に、どのようなメンバーが中心となり編集を行うか、また編集、印刷、販売をどうするかを検討を行っており、年会の折の評議員会とジャパニーズ・ジャーナルの編集委員会で中間報告を行いました。

その後の情報を含め、現時点(4月25日)では次のようになっています。

1. 新しいジャパニーズ・ジャーナルの編集委員会について

- ・サーヴェイ論文であるが査読を行う。
- ・4-5人の Editors をおくことにし、発足時には、小野薫、河東泰之、小林俊行、斎藤毅、中島啓(50音順、敬称略)の諸氏 にお願ひする。
- ・広い範囲から論文を集めるために、必要に応じて Associate Editors をおく。

2. 編集委員会の移行手続き

- ・現在のジャパニーズ・ジャーナルの編集委員の任期は2005年12月までとし、現在までに受け付けた論文の編集を担当する。
- ・新しいジャパニーズ・ジャーナルを編集するための編集委員は、2005年4月から活動を開始する。
- ・2005年4月から2005年12月までは双方の編集委員が並存し、現在の編集委員会は2005年度のジャパニーズ・ジャーナルの編集に責任を持ち、新しい編集委員会は2006年度以降のジャパニーズ・ジャーナルの編集に責任を持つ。

3. 編集体制について

- ・編集事務は日本数学会の事務局で行い、そのために秘書を雇う。
- ・印刷と販売は出版社に依頼する予定で、現在具体的条件を交渉中である。

4. 論文の直接投稿の受け入れは停止する。各大学の紀要からの論文のジャパニーズ・ジャーナルへの受け入れは7月の編集会議で採択される物までとする。

今年の夏には、来年度のジャパニーズ・ジャーナルの購入の申し込みを受ける必要があることから、それまでに出版社と詳細を詰めると共に、論文を集め始める必要があります。雑誌の立ち上げの作業は非常に大変なエネルギーが必要です。新しいジャパニーズ・ジャーナルの Editors となることを引き受けて頂いた方々に深く感謝の意を表すると共に、皆様のご支援をお願いしたいと思います。

なお、新しいジャパニーズ・ジャーナルについては、今年の秋期総合分科会の時に開かれる評議員会で報告を行う予定です。

前理事長 森田康夫記